

嶋満神社便り

令和四年十二月号(第二十九号)

発行 嶋満神社奉賛会

お寺巡りだけではない、ディープな「小浜」

―若狭姫神社、若狭彦神社―

若狭地方には古代からの、わが国の成り立ちや人々の精神史が感じられる神社仏閣が数多く存在します。よく観光で訪れたり案内されるのはその内の「お寺さん」ですが、神社もなかなか見どころたっぷりです。

若狭姫神社は若狭一宮の下社、若狭彦神社は同、上社として、小浜市の遠敷川沿いに約1.5km離れてお祀りされています。

下社の鳥居前には道沿いとその清流が滔々と流れ、上社の参道は鬱蒼たる巨木に覆われて、正に「神域」であることを実感させてくれます。

御祭神は下社が**豊玉姫命**(トヨタマヒメノミコト)、上社が**彦火火出見命**(ヒコホホデミノミコト)。トヨタマヒメとヒコホホデミの子がウガヤフキアエズノミコトで、その子がカムヤマトイワレビコ、すなわち**神武天皇**ですから正に由緒あるお宮さん、ということができますね。

ちなみにウガヤフキアエズの妻で神武の母は**玉依姫命**(タマヨリヒメノミコト)で、下社の境内社にお祀りされているほか、京都の下鴨神社の御祭神でもあります。

さて下社鳥居前の清流を背にして集落の方を見ると、小径の向こう、前方約一〇〇メートルのところ立つ、さらに大きな鳥居が目に入ります。実はこちらが「一の鳥居」、この鳥居をくぐり、左右を見渡すとその前を通る道が旧道であることが分かります。



つまり今来た道が参道の始まり、そしてその道を振り返ると立派な一の鳥居の向こうは、はるかに今来た下社の鳥居、先ほどお参りしたお宮さんの情景が再び儼かなイメージで甦ってきます。

拝殿にお参りをして、なかなかここまで来る人はいないだろうと、心の中で優越感に浸ってみましょう。

一方、上社の方は、

拝殿の屋根の葺き方は違っても基本的に同じ造りのようですが、拝殿前には古代の何かの広い建物の跡の礎石が残されており、神域を覆う巨大な古木の森と相まって一層神秘さが感じられます。

トヨタマヒメは産屋

の屋根の葺き終える前に出産したので「安産の神」…そこで御子神の名がウガヤフキアエズと言う…とされています。

しかしトヨタマヒメもタマヨリヒメも海神の娘であり、水霊信仰に関係する祈雨の神とすることができ、これらの神を祀る神社はたいへい水に縁のあるところであると言います。

またヒコホホデミは有名な「海幸彦、山幸彦の神話」の山幸彦で、山海の恵みを支配する神、農業と漁業の守護神の性格を持ちます。

こうしたことから、この「若狭一宮」両社は遠敷川の清流沿いというロケーション、そして**御食国**(みけつくに)として大和朝廷の食を支えた若狭小浜の重要性を思う時、その存在の必然性がありと見えてくるような気がします。

さらにこの神話が古代海人の伝承をモチーフにしていると言われることから、この両社が舞鶴と無縁であるとは思えません。

皆様も年末年始のお詣りに一度、ドライブがてら若狭小浜を訪れてはいかがでしょうか？



資料出典

「日本の神様」がよくわかる本 戸部民夫

若狭姫神社 由緒書き